



2018年12月7日

株式会社佐久
南三陸ワシタカ研究会
南三陸ネイチャーセンター友の会
南三陸町
林野庁東北森林管理局
公益財団法人日本自然保護協会

南三陸地域で日本初となる官民が連携した イヌワシの保全と林業振興を両立する森林計画を策定

イヌワシは、日本で絶滅が危惧されている大型猛禽類であり、日本における個体数は500羽程度と考えられています。南三陸地域は古くからイヌワシの生息地として知られており、立花繁信氏や田中完一氏ら地元研究者、さらには南三陸ワシタカ研究会によって60年以上の長期にわたるモニタリング調査が行われてきました。石巻市(旧北上町)の翁倉山域は「イヌワシ繁殖地」として国の天然記念物に指定されており、合併前の旧北上町、旧津山町(現登米市)、さらには合併後の南三陸町の“町の鳥”はいずれもイヌワシであり、イヌワシは南三陸地域の人々にとって古くから親しまれてきた鳥です。しかし、南三陸地域で生息が確認されていた4つがいのうち、3つがいが2012年まで消滅してしまい、その生息状況は危機的な状況にあります。

そこで、私たちは、2015年より「南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト」を発足させ、イヌワシの生息環境の再生と地域の林業振興を両立し、南三陸地域をイヌワシの生息地として次世代に引き継ぐことを目指してきました。

今回、イヌワシの生息場所である森林を管理する、林野庁東北森林管理局と株式会社佐久が連携して、イヌワシの生息環境の再生を目指す今後5年間の森林計画を策定することとしました。国有林と民有林が連携したこのような取組は日本初のことです。

また、地元自治体である南三陸町も、イヌワシの生息場所やその周辺の町有林において同様の森林計画を策定すべく調整中です。

イヌワシの行動範囲は一つがいあたりおよそ6000haにも及ぶため、これら広範囲の森林に関わる多様な主体が連携してイヌワシの保全と林業振興の両立に取り組むことが重要です。

日本各地のイヌワシの生息地において、本取組を先進的事例として参考とされ、森林に関わる多様な主体が連携してイヌワシの保全と林業振興の両立を目指す取組を進めることができれば、イヌワシを絶滅の危機から救うことができるものと期待します。

なお、南三陸地域において、さらにこのプロジェクトを普及していくため、明日（12月8日）午前10時から、南三陸町役場において、地元住民等を対象とした説明会を開催します。

- 1) 株式会社佐久は、かつてイヌワシが生息していた地域の約120haにおいて、イヌワシの保全と林業経営を両立した森林計画を2018年12月に策定した。（12月宮城県認定予定）
- 2) 林野庁東北森林管理局は、イヌワシが生息していた地域の約3000haにおいて、イヌワシの保全と適正な森林管理を両立した森林計画を2019年3月に策定予定。
- 3) 南三陸町は、イヌワシが生息していた地域とその周辺の町有林において、イヌワシの保全と林業経営を両立した森林計画を策定すべく調整中。

<お問い合わせ>

林野庁東北森林管理局 計画課 添谷 稔（TEL：018-836-2200）

公益財団法人日本自然保護協会 自然保護部 出島誠一（TEL：03-3553-4107）

以上